



梅本 通孝
UMEMOTO Michitaka

都市防災研究室

Urban Disaster Management Lab.

Keywords: 被害抑止, 被害軽減, 応急対応, 復旧・復興, 自助・共助

研究室の目標:

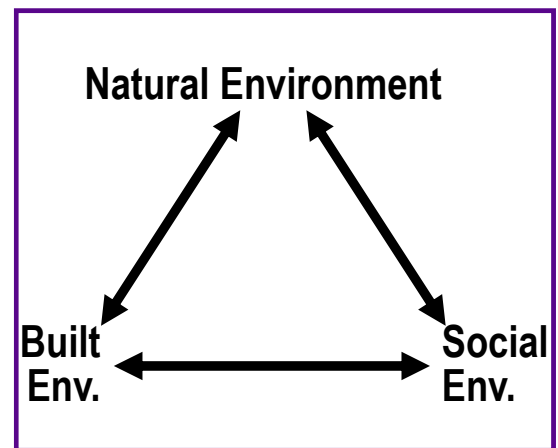
「防災」は、都市・地域とそこでの人々の暮らしの基盤を支える、社会の根幹的な要素です。**筑波大学都市防災研究室**では、自然災害を中心に、社会的アプローチによってその事象を捉え問題を発見し、工学的アプローチにより問題に対する解決策を研究・提案していきます。

□災害の構造:

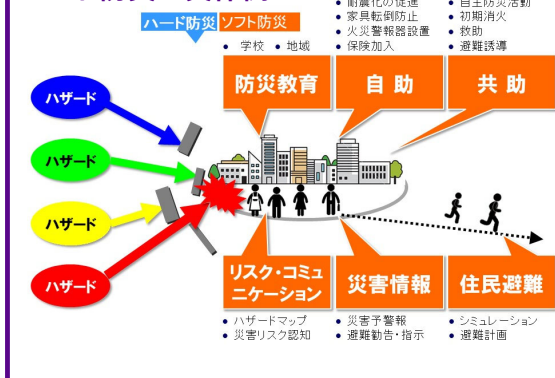
人間の社会は、一定の自然条件(Natural Environment)を前提として建造された構造物の環境(Built Env.)の中で、社会的な繋がり(Social Env.)を持って形成されています。

災害とは、日常において保たれているそれら3要素間のバランスが、何らかの原因(多くの場合は特異的な自然現象)によって崩れ、「いつものことがいつも通りにできなくなる状態」と言えます。

筑波大学都市防災研究室では、この3要素とその間のバランスという観点で「災害」と「防災」を捉えています。



ソフト防災の具体例



□防災の2種類のアプローチ:

防災には、構造物により加害力となるハザードを抑え込む「ハード防災」と、被害側の工夫と対応によって被害の軽減を図る「ソフト防災」があります。前者がハザード(=災害の種類)ごとに講じる対策であるのに対し、後者は人々や都市・地域・社会の側を作用点とする対策です。

筑波大学都市防災研究室では、都市・地域の災害リスクを踏まえて、人々と社会の防災と安全を実現する方策を追究しています。

□リスクマネジメントの本質:

リスクマネジメントにおけるリスク処理手段には「回避」のほかにも、「除去」、「転嫁」、「保有」という方法があります。つまり危なそうなことや不確実なことを常に避けるばかりが「リスクマネジメント」なのではありません。

リスクは、たいてい何らかの便益やメリットを得ようとする活動や行為に伴って生じます。リスクマネジメントにはその本来目的とリスクとのバランスという視点が不可欠です。

**A ship in harbor is safe,
but that is not what ships are built for.**

— John Augustus Shedd

船は港の中にいれば安全だ。
しかし、船はそのために造られるのではない。

筑波大学都市防災研究室は、「防災」をリスクマネジメントの文脈で捉え実践します。